

## 令和5年6月19日開催教育委員会会議記録

### 1 開会・閉会等について

開催日	令和5年6月19日(月)
場 所	教育委員会室
開 会	午前10時00分
閉 会	午前10時29分
出席委員	
教 育 長	加 藤 裕 之
委 員	阿 部 博 道
委 員	淺 松 三 平
委 員	岸 田 玲 子
委 員	岡 田 卓 巳
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	宮 本 知 幸
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	浮 田 康 宏
学 務 課 長	西 村 克 己
指 導 室 長	石 坂 泰
すみだ教育研究所長	宮 本 佳 代 子
地域教育支援課長	大 八 木 努
ひきふね図書館長	有 澤 恵 美 子
教育委員会事務局副参事	山 崎 紀 之

### 2 議題について

#### (1) 議決事項

議案第32号 行政財産(二葉小学校屋内運動場)の用途廃止について

#### (2) 報告事項

第1 教育課題の進捗状況について

### 3 会議の概要について

教育長 それでは、本日の教育委員会を開会いたします。本日の会議録署名人は、阿部委員に

お願いします。

#### 議決事項第1・・・資料番号【32-1～32-4】

議案第32号「行政財産（二葉小学校屋内運動場）の用途廃止について」を上程し、副参事が資料のとおり説明する。

教育長 ただいまの説明について、何かご質疑・ご意見はございますか。

岡田委員 改築工事期間中は、体育の授業は代替施設で行うのですか。

副参事 代替施設については、両国中学校の体育館を使用することになっています。

岡田委員 分かりました。授業のために歩いていくのですね。

岸田委員 体育館は、避難場所に指定されていないのですか。

副参事 学校自体が避難所となっていますので、体育館が使えないときは、校舎を避難所として使用するよう、防災課と調整しています。

教育長 それでは、議案第32号は原案どおり用途廃止することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

教育長 それでは、原案どおり用途廃止することにします。

#### 報告事項第1・・・資料番号【資料1-1～1-2】

「教育課題の進捗状況について」、指導室長、すみだ教育研究所長が資料のとおり説明する。

指導室長 （「不登校防止対策の充実」について説明）

教育長 ただいまの報告について、何かご質疑はございますか。スクールソーシャルワーカーの派遣で継続申請1件と書いてありますが、何年もずっと続いているのですか。それとも、継続は3年間までといったように、派遣期間が決まっているのですか。

指導室長 確認して、後ほどお答えします。

浅松委員 校内スモールステップルームについて、墨田区は、学校単位ではなく区全体で取り組んでいると思いますが、これはとても良い取組だと思います。他区での経験ですが、学校単位で、不登校ぎみの子どもたちがあまり構えずに学校に入っていけるような状況をつくることは、大変苦勞することです。ですので、今の墨田区の取組は本当に評価すべきだと思いますし、成果についても積極的に情報交換して、これから取り組んでいく学校がスムーズに展開できるよう、ぜひご配慮をお願いしたいと思っています。

指導室長 今後も充実させていきたいと思っています。年間予定の中に、7月に支援員のヒアリングが入っています。今後、支援員に直接様子や課題を伺いながら、今後の対応を進めていきたいと思っています。

阿部委員 「前年度の不登校児童・生徒の個票を基に、不登校の要因等を分析」とありますが、不登校の原因は本当に多岐にわたって様々なケースがあると思います。個別の事例を集積してデータベース化し、新たなケースが発生した際に参照できるようにすることはできないのですか。

指導室長 分析結果をそれぞれ個別に参照するのは、個人情報絡むためどこまで出せるかと

いう問題もありますので、不登校の要因をおおまかな傾向ごとにまとめ、それぞれの対応をまとめることをイメージしています。今後ご意見をいただきながら、進めていきたいと思いません。

浅松委員 関連して、以前の総合教育会議でも話に上がりましたが、不登校児の起立性調節障害が最近非常に話題になっています。そして、起立性調節障害に限らず、不登校の児童・生徒に対する学習評価は、以前から課題だと思えますが、親からすると「自分の子どもは学校へ行けていないが、適切に評価されている」という安心感は必要だと思えます。そうしたことについて、指導室としてはどのような対応をされていますか。

指導室長 不登校の児童・生徒の成績については、進路にも関係しますので、保護者の関心も高く、教員も大きな課題だと捉えていると思えます。学校は原則、個々の生徒の学習の成果や達成度を把握して評価するように努めています。現在は、GIGAスクール構想に基づくタブレット端末を使ったオンライン授業など、様々な学習機会が得られるようになってきました。ですので、それぞれの方法で学習した成果をどう評価していくかについて、今後、中学校の進路担当の連絡会で話題に出して、各学校の取組を聞きながら、より良いものにしていきたいと考えています。

浅松委員 評価する側の教員や学校が、不登校の児童・生徒にどれだけ寄り添えるかという課題を踏まえて、校内研修等の中で、学校全体で学習評価の在り方を考えていかななくてはならないと思えます。また学習指導要領が改訂された中での学習評価の見直しもしていかななくてはならないという観点もありますので、引き続き指導をしていただきたいと思えます。

次長 不登校児童・生徒データベースや、学習評価の件は課題だと認識しています。特にサポート学級やステップ学級が別の場所にあることから、その連携が一番の課題になっています。それらのことを含め、不登校支援についてどう取り組んでいくか、引き続き考えていきたいと思っています。多様化している不登校の要因の中でも一番多いのが、無気力や不安といったものです。なぜ無気力になったのか、なぜ不安になったのかということをもう少し掘り下げて考えていく必要があると思っています。

指導室長 先ほど教育長から質問のありましたスクールソーシャルワーカーの継続年数についてですが、特に決まりはありません。過去に一番長かった継続年数は7年間という記録が残っています。資料1-1の継続申請1件については、昨年度から始まったものの継続で、2年目に入るものです。年数に決まりがないのは、個々のケースに応じたものになるためです。

教育長 ただ長くやっていたらいいというものではないと思えますが。

指導室長 継続案件については、スクールカウンセラーの話聞きながら、関係機関に引き継いでいく内容等については検討していきます。継続案件の長期化によって新規案件の対応ができなくなることはないように、今後の見通しはしっかり持って進めていきます。

教育長 今後は、過去どのくらいの期間で解決できたか、例えば1年間で解決できたとか、2年間継続したといった成果を出してもらいたいと思えます。

岸田委員 家庭内で問題のある子が不登校になったということでしたが、その中にはヤングケアラーもいるのではないかとと思えます。母親が夜中に救急車を呼ぶので、自分以外に誰もいないため同乗して病院に付き添って、その結果、朝起きられずに不登校になっているというケースを担当したことがあります。家庭に問題を抱えた子は、ひとり親の子やヤングケアラーが本

当に多いです。無気力になっている要因は、勉強が分からないだけでなく、家庭内にあることも多いことを先生が把握できているかどうかが重要だと思います。

指導室長 関係機関や専門家の意見も伺いながら、対応していきたいと思います。

浅松委員 今の話のように、学校がどの程度理解しているかという点は、大きな課題だと思います。実際に学校では、不登校に限らず、スムーズな対応が出来ていないこともあると思います。また、不登校でなかなか連絡が取れない場合に、一教員だけで対応するのはなかなか難しいので、民生委員の方や地域の方と一緒に対応するとか、あるいは連絡を取り合いながら情報を得るといったことを、組織的にやらないといけません。墨田区は更に一歩進んでできるのではないかと思います。

教育長 では、続いて説明をお願いします。

すみだ教育研究所長 (「学力向上新3か年計画(第3次)の推進」及び「幼保小中一貫教育推進計画の改定」)について説明)

教育長 新聞報道では、英語の調査をやり直したところがあったとありましたが、墨田区ではどうでしたか。

すみだ教育研究所長 墨田区でやり直しをした学校はありません。

教育長 順調に調査ができたということですね。

すみだ教育研究所長 はい。

教育長 以上で、本日の議事は全て終了しましたが、そのほかに委員の皆さんまたは事務局から何かございますか。

浅松委員 先日、第一寺島小学校の公開授業へ足を運びました。終わった後に校長室で少し話したのですが、先月末にプール開きに備えてプールを清掃した際に、底に塗装の剥がれ等の破損があったそうです。それで教育委員会に連絡したところ、施設係の職員が速やかに学校に来て対応し、補修工事も2、3週間で完了してプール開きに間に合ったそうです。迅速に対応してもらい大変感謝するとともに、大変心強いという話をいただいたので、この場で報告させていただきます。

教育長 ほかにございますか。

(発言なし)

教育長 これで教育委員会を閉会します。